

職員による自己評価

A業務改善

アンケートや懇談会、面談等で利用者からの意向を伺っている。課内での共有は行っているが、検討の時間を十分に取れなかった。

B適切な支援の提供

準備や効率化の視点から固定化している側面がある。新たなプログラムの検討は必要だが、一人ひとりに合わせた配慮はされている。

C関係機関との連携

巡回訪問では地域支援と、職員のスキルアップに繋がっている。また、移行支援や教職員の見学対応、研修を通して学校との連携も行った。

D保護者への説明責任等

クラスだよりは写真付きで活動の紹介をするなど工夫している。保護者とは定期的な面談だけでなく臨時面談や電話対応等柔軟に対応。

E非常時等の対応

毎月の通園課内での避難訓練、バス避難訓練、引き取り訓練を実施した。今年度から健康管理票を入園前に提出していただき、早めに情報共有を行った。

保護者による評価

A適切な支援の提供

約9割の方に満足していただいている。家庭では経験できない活動や遊具に満足の声がある一方で、室内遊びについてマンネリ化を感じる声もあった。

B保護者への説明等

情報伝達の強化のため、クラスだよりに活動報告を載せるようにしたこともあり、95%の方に満足いただいた。一方で、保護者同士の連携については様々なご意見をいただいた。

C非常時等の対応

9割を超える方にご満足いただいたが、具体的なご意見はなかった。

D満足度

「子どもが楽しみに通っている」等の意見をいただき、8割の方に満足していただいている。一方で、継続利用などのシステムや、通園課だけではなく、療育センター全体の運営について多くの意見をいただいた。

通園課内での分析

【共通点】

- ・子どもへの直接支援だけではなく、電話対応や面談など保護者（家族）への支援を積極的に行った。
- ・活動プログラムや室内遊具の設定については、固定化している側面がある。

【相違点】

- ・情報発信の仕方オンライン等の活用について、昨年度に引き続きご意見をいただいている。
- ・非常時の対応について、利用者には満足していただいているが、職員からはマニュアルの周知は十分ではなかったという意見が見られた。
- ・次年度以降の集団療育の継続利用についてご意見をいただいた。

分析・検討してみても…

通園課の強み

- ・子どもや保護者に寄り添い、丁寧に話を聞き支援を行っている。
- ・保護者の意向を業務改善につなげるために、アンケートや懇談会で意見を集約し、改善に向けて検討している。

通園課の改善点

- ・保護者への発信のツールとして、アプリ等の活用を、さらに積極的に行う。
- ・活動や室内遊びの設定の固定化については、改善に向けた取り組みや利用者への周知が必要。

通園課の改善への取り組み

- ・保護者への発信のツールとして、アプリ等の活用を引き続き検討していく。利用者の利便性を考慮し紙ベースとアプリの活用をハイブリットで行い、情報周知を徹底できるよう工夫する。
- ・共有スペースは係を中心に定期的に見直し検討している。室内遊びの設定や活動については、子どもにとっての積み重ねや業務の効率化を目的に固定させている場合もある。所内で設定の工夫について共有や検討を行い、子どもに合わせた設定の工夫について保護者への説明を行う。

～自己評価を行っての通園課としての感想など～

南部センター通園課の運営について、利用者の皆様が関心を持ち、貴重なご意見をいただけて非常に感謝しております。今年度は感染症拡大防止対策を講じながらではありましたが、概ねコロナ渦前の状況に戻すことができました。利用者の皆様にご理解ご協力いただいたこと感謝申し上げます。また、療育の継続利用については様々のご意見をいただきました。幼児期にできるだけ多くの方に療育の提供をいたしたく、ご理解をいただくよう説明させていただいております。頂いたご意見は真摯に受け止め、所内で共有し検討させていただきます。

アンケートのご協力、並びにたくさんのご意見ありがとうございました。